

目次

第1部

1	五十音圖と歴史的かなづかい……………	4		
	①五十音図	②歴史的かなづかい		
2	文・文節・単語・品詞……………	6		
	①文	②文節	③単語	④品詞
3	動詞……………	8		
	①四段活用	②上二段活用		
	③下二段活用	④上一段活用		
	⑤下一段活用	⑥カ行変格活用		
	⑦サ行変格活用	⑧ナ行変格活用		
	⑨ラ行変格活用			
4	動詞の活用の種類の見分け方……………	10		
5	形容詞・形容動詞……………	12		
	①形容詞(ク活用)			
	②形容詞(シク活用)			

	③形容動詞(ナリ活用)		
	④形容動詞(タリ活用)		
6	用言の音便と語幹の用法……………	14	
	①動詞の音便		
	②形容詞・形容動詞の音便		
	③形容詞・形容動詞の語幹の用法		
7	名詞……………	16	
	①普通名詞	②固有名詞	③数詞
	④形式名詞	⑤代名詞	
8	副詞・連体詞……………	17	
	①主な呼応の副詞		
	②主な連体詞		
9	接続詞・感動詞……………	18	
	①主な接続詞	②主な感動詞	
10	総合演習問題(1)……………	20	

第2部

1	助動詞総説……………	22	
2	過去・完了の助動詞……………	24	
	①〈き・けり〉	②〈つ・ぬ〉	③〈たり・り〉
3	推量の助動詞(1)……………	26	
	①〈む(ん)〉		
	②〈らむ(らん)〉		
	③〈けむ(けん)〉		
4	推量の助動詞(2)……………	28	
	①〈べし〉	②〈まし〉	
	③〈めり〉	④〈らし〉	
5	打消・打消推量の助動詞……………	30	
	①〈ず〉	②〈じ〉	③〈まじ〉

第3部

6	断定・伝聞・推定・願望・ 比況の助動詞……………	32		
	①〈なり〉	②〈たり〉		
	③〈なり〉			
	④〈まほし・たし〉			
	⑤〈ごとし〉			
7	自発・使役の助動詞……………	34		
	①〈る・らる〉			
	②〈す・さす・しむ〉			
8	総合演習問題(2)……………	36		
9	助詞総説……………	38		
10	格助詞……………	40		
	①〈の・が〉	②〈より〉	③〈と〉	④〈に〉
11	接続助詞……………	42		
	①〈ば・とも・ど・ども〉			
	②〈で〉	③〈が・に・を〉		

第3部

12	副助詞……………	44		
	①〈だに〉	②〈すら〉		
	③〈さへ〉	④〈し〉	⑤〈のみ〉	⑥〈ばかり〉
13	係助詞と係り結びの法則……………	46		
	①係り結びの法則			
	②注意すべき係り結び			
14	終助詞・間投助詞……………	48		
	①〈ばや〉	②〈なむ〉		
	③〈もがな・がな〉			
	④〈てしが(な)・にしが(な)〉			
	⑤〈な・(な)……そ〉			
	⑥〈か・かな・な〉			
	⑦〈かし〉	⑧〈や・よ・を〉		
15	「なむ」「ぬ」の識別……………	50		
	①「なむ」の識別	②「ぬ」の識別		
16	総合演習問題(3)……………	52		

第3部

1	敬語法……………	54			
	①敬語の種類	②敬語の考え方	③注意すべき敬語		
2	主な敬語一覧……………	56			
	①尊敬語	②謙讓語	③丁寧語		
3	注意すべき活用形の用法……………	58			
	①連用形の用法	②連体形の用法			
4	注意すべき文の構造……………	59			
	①倒置	②省略	③挿入句	④引用句	
5	和歌の修辞法……………	60			
	①枕詞	②序詞	③掛詞	④縁語	⑤本歌取り
6	総合演習問題(4)……………	62			

五十音図と歴史的かなづかい

古典文法を学ぶ第一歩として、古典に用いられている「かな」とそのかなづかい、すなわち「歴史的かなづかい」について、理解する必要があります。

五十音図

五十音図は、「かな」のすべてをまとめたもので、日本語の代表的な音を五段十行に規則的に配列した表です。これによって、動詞の活用のかたや音韻の變化がきれいに説明できます。

ワ行	ラ行	ヤ行	マ行	ハ行	ナ行	タ行	サ行	カ行	ア行	行 段
わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ	ア段
ゐ	り	い	み	ひ	に	ち	し	き	い	イ段
う	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う	ウ段
ゑ	れ	え	め	へ	ね	て	せ	け	え	エ段
を	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お	オ段

基本問題

歴史的かなづかいの五十音図のうち、ア行・ヤ行・ワ行をひらがなで書きなさい。

ワ行	ヤ行	ア行

次の文の空欄①～⑩に、後の語群から最も適する語句を選んで入れ、文章を完成しなさい。

五十音図は、日本語で用いられる音節のうち、
① だけを規則的に配列した表である。ローマ字で書いてみるとよくわかるが、縦に同じ
②、横に同じ
③ をそろえて配列されている。その縦の並びを
④、横の並びを
⑤ と呼ぶ。

五十音図といっても、実際は
⑥ と
⑦ に「い」「え」二つの、
⑧ と
⑨ に「う」の重複があるので、かなの種類は全部で四十七になる。そして、その四十七の異なるかなを一度ずつ用いて作られた歌が、いわゆる
⑩ である。

(語群)	清音	濁音	母音	子音	段	行	ア行
ヤ行	ワ行	いろは歌	あめつちの詞				

歴史的かなづかい

歴史的かなづかいは、平安時代中期以前の古典に基準を置いたかなづかいです。時代が下るにつれ、その表記と発音とにずれが生じてきたので、読むときにはいくつかの注意が必要です。

読み方の原則

(1) 語頭を除く「は・ひ・ふ・へ・ほ」は、それぞれ「ワ・イ・ウ・エ・オ」と読む(ただし、複合語で下の成分の元の語頭はそのままハ行音で読む)。

(2) 「う」に続く連母音は、それぞれ次のように長音に読む。

- ① アう (au) ↓ オー (ô)
- ② イう (iu) ↓ ユー (yû)
- ③ エう (eu) ↓ ヨー (yô)
- ④ オう (ou) ↓ オー (ô)

例 まうす (申す) ↓ モース
てうど (調度) ↓ チョード

(3) 「ゐ・ゑ・を」は、「イ・エ・オ」と読み、また「ち・つ」は、「シ・ス」と読む。

(4) 助動詞「む」「らむ」「けむ」、助詞「なむ」などに含まれる「む」は、「ン」と読む。

なお、(1)と(2)の組み合わせの例も多く、例えば、
例 あふぎ(扇) ↓ アウギ ↓ オーギ
てふ(蝶) ↓ テウ ↓ チョー のように考える。

次の①～⑭の語の読み方を、現代かなづかいによるカタカナで答えなさい。

① あはれ	② あひだ	③ かよふ
④ かへす	⑤ ほのほ	⑥ かうし
⑦ いふ	⑧ けふ	⑨ まよふ
⑩ ある	⑪ ゑがく	⑫ をんな
⑬ ちもく	⑭ よろづ	

次の文中、傍線部①～⑧の語句の読み方をカタカナで答えなさい。

① 年ごろ思ひつること果たしはべりぬ。聞きしにも過ぎてたふとくこそおはし
けれ。そも、まゐりたる人ごとに山へのぼりしは、何事かありけん。(徒然)

③	①
④	②

② 「さかなきわらはべどもつかまつりける、奇怪にさうらふことなり」とて、

⑦	⑤
⑧	⑥

さし寄りてすゑなほしていなければ、上人の感涙いたづらになりけり。(徒然)

動詞

用言(特に動詞)の活用は、古典文法の基礎になる重要事項です。助動詞を学ぶときの前提にもなりますから、きちんと理解しましょう。

1 四段活用

Table with 2 columns: 基本形 (書く), 語幹 (書), 未然 (か), 連用 (き), 終止 (く), 連体 (く), 已然 (け), 命令 (け)

*五十音図の「ア・イ・ウ・エ」の四段に語尾が現れる。

2 上二段活用

Table with 2 columns: 基本形 (起く), 語幹 (起), 未然 (き), 連用 (き), 終止 (く), 連体 (く), 已然 (くれ), 命令 (きよ)

*五十音図の「イ・ウ」の二段に語尾が現れる。

3 下二段活用

Table with 2 columns: 基本形 (受く), 語幹 (受), 未然 (け), 連用 (け), 終止 (く), 連体 (くる), 已然 (くれ), 命令 (けよ)

*五十音図の「ウ・エ」の二段に語尾が現れる。

4 上一段活用

Table with 2 columns: 基本形 (着る), 語幹 (着), 未然 (き), 連用 (き), 終止 (きる), 連体 (きる), 已然 (きれ), 命令 (きよ)

*五十音図の「イ」段に語尾が現れる。

5 下一段活用

Table with 2 columns: 基本形 (蹴る), 語幹 (蹴), 未然 (け), 連用 (け), 終止 (ける), 連体 (ける), 已然 (けれ), 命令 (けよ)

*五十音図の「エ」段に語尾が現れる。

6 力行変格活用(カ変)

Table with 2 columns: 基本形 (来), 語幹 (来), 未然 (こ), 連用 (き), 終止 (く), 連体 (くる), 已然 (くれ), 命令 (こよ)

7 サ行変格活用(サ変)

Table with 2 columns: 基本形 (す), 語幹 (す), 未然 (せ), 連用 (し), 終止 (す), 連体 (する), 已然 (すれ), 命令 (せよ)

8 ナ行変格活用(ナ変)

Table with 2 columns: 基本形 (死ぬ), 語幹 (死), 未然 (な), 連用 (に), 終止 (ぬ), 連体 (ぬる), 已然 (ぬれ), 命令 (ぬ)

9 ラ行変格活用(ラ変)

Table with 2 columns: 基本形 (あり), 語幹 (あ), 未然 (ら), 連用 (り), 終止 (り), 連体 (る), 已然 (れ), 命令 (れ)

基本問題

1 次の動詞の活用表を作りなさい。

Large grid for conjugation table with columns: 語幹, 未然, 連用, 終止, 連体, 已然, 命令, 活用の種類 and rows: 蹴る, 率る, 見る, 植う, 寄す, 老ゆ, 落つ, 思ふ, 急ぐ

2 次の傍線部の動詞を、a 終止形に改め、b 五十音図の何行に活用するか答えなさい。

- (1) 本意のごとく会ひにけり。(伊勢)
(2) 行く川の流れば絶えずして...(方丈)
(3) 母の命尽きたるを知らずして...(方丈)
(4) 富士の山を見れば...(伊勢)

Table with 2 columns: a, b and 4 rows for answers

3 次の動詞の活用表を作りなさい。

Large grid for conjugation table with columns: 語幹, 未然, 連用, 終止, 連体, 已然, 命令, 活用の種類 and rows: 来, 来たる, おはす, おほす, 死ぬ, 死ぬ, 死す, をり, 居る

4 次の文中、傍線部①～⑤の動詞を終止形に改め、該当する活用の種類の欄に書き入れなさい。

(1) 亡き人の来る夜とて魂まつるわざは、このころ都にはなきを、東の方にはなほする^②ことにてありしこそ、あはれなりしか。(徒然)
(2) 「あないみじ。犬を蔵人二人して打ちたまふ、死ぬ^④べし。流させたまひける^⑤が帰り参りたるとて、調じたまふ。」といふ。(枕)

Table with 4 columns: カ変, サ変, ナ変, ラ変